

《履修モデル》

講座	3.芸術文化講座			
学系	人間科学系			
関係	文化社会論			
分野	動態映画文化論	制度・生活文化史	音楽文化論	メディア・スタディーズ
教員	教授：木下 千花 准教授：仁井田 千絵	教授：菅 利恵	准教授：上田 泰史	非常勤講師
1～2回生	動態映画文化論	制度・生活文化史	音楽文化論講義 音楽文化論実習（非常勤講師）	メディア・スタディーズ（非常勤講師） メディア文化学（非常勤講師）
	1～2回生では、全学共通科目から、現代の社会や文化、さらには哲学・芸術・文学・思想・歴史・国際関係に関する授業を幅広く履修し、知識の地平を拡げておくことが望ましい。そのなかで思考の訓練を積み、自分の興味や問題意識がどこにあるかを探り、自らの視点を養ってほしい。語学力も磨いておくこと。			
3回生	動態映画文化論Ⅰ、Ⅱ 動態映画文化論演習Ⅰ、Ⅱ	制度・生活文化史 制度・生活文化史演習	音楽文化論講義 音楽文化論演習 音楽文化論実習（非常勤講師）	メディア・スタディーズ（非常勤講師） メディア文化学（非常勤講師）
	3回生では、自らの関心対象、テーマに焦点を絞って学部科目を履修することを勧める。卒論のテーマを複数挙げ、どれがよいかしっかり考えること。各教員が個別に相談に応じる。			
4回生	動態映画文化論Ⅰ、Ⅱ 動態映画文化論演習Ⅰ、Ⅱ	制度・生活文化史 制度・生活文化史演習	音楽文化論講義 音楽文化論演習 音楽文化論実習（非常勤）	メディア・スタディーズ（非常勤講師） メディア文化学（非常勤講師）
	卒論のテーマ、読むべき文献、調査・研究方法などに関しては、動態映画文化論は木下千花・仁井田千絵、制度・生活文化史は菅利恵、音楽文化論は上田泰史が、それぞれ個別に相談に応じる。			
文化社会論では、社会的・歴史的な制度や文脈との関係を重視しつつ、文学、思想、芸術のテキストを分析する人文学の研究を行っています。 *専門科目は重複履修可能です。ただし、メディア文化学(特殊講義)を除く。 *重複履修可能とは、必ず複数回履修しなければならないという意味ではありません。				

《履修モデル》

講座	3.芸術文化講座
学系	人間科学系
関係・分野	創造行為論
教員	教授：栗山 智成（英米演劇） 准教授：武田 宙也（美学） 准教授：田口かおり（美術史）
1回生	<全学共通科目> 芸術学Ⅰ・Ⅱ <学部科目> 基礎演習：美の思想／基礎演習：西洋美術の歴史
	「創造行為論関係」の基礎科目をひろくとること。 「創造行為論関係」の基礎演習、「基礎演習：美の思想」「基礎演習：西洋美術の歴史」をとること。 語学については、英語のほかにも少なくとももうひとつの外国語を履修すること。
2回生	<全学共通科目> 外国文献研究 E1／創造行為論総論A／創造行為論総論B／創造ルネッサンス論A／創造ルネッサンス論B <学部科目> 舞台芸術論A・B／創造行為論講読演習／創造ルネッサンス論基礎ゼミナール
	「創造行為論関係」の2回生以上配当の授業科目をとること。 「創造行為論講読演習」「創造ルネッサンス論基礎ゼミナール」を履修すること。 読解力のつく語学の授業を履修する。 1回生で未履修の場合は、基礎演習をとること。
3回生	<学部科目> 舞台芸術論演習A・B／創造行為論演習A・B／創造ルネッサンス論演習A・B
	「創造行為論関係」の3回生以上配当の演習科目をとり、卒論に向けて徐々に準備を始める。
4回生	<学部科目> 舞台芸術論演習A・B／創造行為論演習A・B／創造ルネッサンス論演習A・B
	引き続き、演習科目をとって、卒論の指導を受ける（なお、演習科目は重複可なので、単位はカウントされる。）
<p>創造行為論分野では、美や芸術の思想、理論、歴史を学びます。といっても、ジャンルや時代、地域が非常に多岐にわたります。たとえば、ジャンルとしては、哲学的な美学、美術史、演劇、音楽、建築、デザインやファッションなどがあります。</p> <p>「創造行為論関係」の科目に限らず、皆さんのそれぞれの関心や興味に応じて、出来るだけひろく選択してください（「自由科目」として文学部等の科目を履修することも可能です）。第二外国語として、できれば2ヶ国語（ドイツ語、フランス語、イタリア語、スペイン語などから）を履修することが望ましいです。また、基礎演習などを通じて、教員に積極的にアプローチすることを勧めます。副専攻については、各人の興味に応じて選択してください。</p>	

《履修モデル》

講座	3.芸術文化講座		
学系	人間科学系		
関係・分野	文芸表象論（英米文芸表象論）	文芸表象論（ドイツ文芸表象論）	文芸表象論（イタリア文芸表象論）
教員	教授：小島 基洋（イギリス文学） 教授：吉田 恭子（アメリカ文学）	准教授：須藤 秀平（ドイツ文学）	准教授：霜田洋祐（イタリア文学）
1～2回生	<p><全学共通科目> E1科目（外国文献研究） <学部科目> 英米文芸表象論講義A・B 英米文芸表象論講読A・B 英米文芸表象論講読IIA・B</p>	<p><学部科目> ドイツ文芸表象論講義A・B 英米文芸表象論講義A・B ドイツ文芸表象論講読A・B</p>	<p><全学共通科目> イタリア語などのロマンス諸語 イタリア語II <学部科目> 英米文芸表象論講義A・B ドイツ文芸表象論講義A・B</p>
	<p>着実な語学力を鍛えるために、1回生から履修可能な講読クラスなど、学部科目に積極的に参加することを勧めます。講読IA・Bと講読IIA・Bは、どちらか一方を履修しても、両方を履修してもかまいません。全学共通科目「E1科目」（2回生時履修）のなかには、英米文芸表象論所属教員の担当授業を含め、英米文学に関連する授業もありますので、興味があれば履修してください。</p> <p>1回生ではドイツ文芸表象論に直結する科目はありません。広く欧米の文化や思想などから関連科目を履修してください。2回生からは講義と講読が始まるので、積極的にそれらを履修してください。また、他の学系（関係）の科目、特にドイツ語圏の文化や思想をテーマとする、制度・生活文化史A・B、文明構造論III、IVA・Bなどを履修するのもいいでしょう。</p> <p>1回生のうちはさまざまな外国語、特にイタリア語をはじめとするロマンス諸語を学んでください。また、広く欧米の文学・思想・芸術に関連する科目を履修することを強く勧めます。2回生からは、これに加えて、イタリア語II（講読）や文学部のイタリア語学イタリア文学の講読の授業を履修してください。外国語文献をじっくり読み込むことに慣れていきましょう。</p> <p>全学共通科目では、幅広く文学・思想・歴史・国際関係などに関する授業を履修してください。視野を広げると同時に、今後の自らのテーマを決める上で役に立ちます。また、専門に關係する／分野に関連する言語の語学力をしっかりと身につけましょう。</p>		
3回生	<p><学部科目> 英米文芸表象論講義A・B 英米文芸表象論講読IA・B 英米文芸表象論講読IIA・B 英米文芸表象論演習IA・B</p>	<p><学部科目> ドイツ文芸表象論講義A・B ドイツ文芸表象論演習A・B ドイツ文芸表象論講読A・B</p>	<p><学部科目> 言語芸術論講義 イタリア言語文化論演習I・II</p>
	<p>講義および講読クラスは、1～2回生時に履修した場合も重複が可能なので、意欲的に履修することを勧めます。</p> <p>ドイツ文芸表象論の演習A・Bは3回生から履修可能なので、できるだけ3回生から履修してください。また講義や演習で今まで履修できなかった科目も履修してください。</p> <p>3回生からはイタリア文芸表象論に直結する科目が始まるので、それらを積極的に履修してください。また、未履修の講読科目や文学部の関連科目も履修してください。</p> <p>3回生では、卒論に備えてください。自分の興味のあるテーマに関連した科目だけでなく、卒論研究に資すると思われる科目を履修することを勧めます。卒論のテーマをいくつか挙げながら、徐々に焦点を絞り込んでゆくこと。各教員が個別に相談に応じます。</p>		
4回生	<p><学部科目> 英米文芸表象論講義A・B 英米文芸表象論講読IA・B 英米文芸表象論講読IIA・B 英米文芸表象論演習IA・B 英米文芸表象論演習IIA・B</p>	<p><学部科目> ドイツ文芸表象論講義A・B ドイツ文芸表象論演習A・B ドイツ文芸表象論講読A・B</p>	<p><学部科目> 言語芸術論講義 イタリア言語文化論演習I・II</p>
	<p>講義・講読クラスは、1～3回生時に履修した場合も重複が可能なので、意欲的に履修することを勧めます。「英米文芸表象論演習IIA・B」は、指導教員の開講科目を履修することが必修です。</p> <p>ドイツ文芸表象論の科目はすべて再履修可能（毎年違うテーマと内容）なので、興味のある科目を再履修してください。特に演習は卒論に関する相談の場にもなるので、できるだけ履修してください。</p> <p>講義・演習は、3回生時に履修した場合も重複が可能なので、意欲的に履修してください。特に演習は、テキスト精読の訓練となるだけでなく卒論相談の機会ともなるので、できるだけ履修してください。</p> <p>卒論のテーマ、調査・研究方法、および論文の作成方法などについては、英米文芸表象論では吉田恭子・小島基洋（英米文学）が、ドイツ文芸表象論では須藤秀平（ドイツ文学）が、イタリア文芸表象論では霜田洋祐（イタリア文学）がそれぞれ個別に応じます。9月末頃には、卒論中間発表会を予定しています。</p>		
<p>文学作品を読むこと、つまり、物語をとおして私たちを取り巻く諸問題について具体的にかつ深く考察することは、人間としての基本的な力を培ううえで非常に重要です。本格的に作品を読むのには、やはり原書に勝るものはありません。そのためには、語学修練も必要になります。学生時代に文学作品を読む経験を積んで、文学の面白さを知ってほしいと思います。卒業論文に取り組むにあたっては、自分の興味のある作家・作品を決めて、テーマを絞り込んでいってください。</p>			

《履修モデル》

講座	3.芸術文化講座
学系	国際文明学系
関係・分野	歴史文化社会論（西欧文化論分野）
教員	教授：池田 寛子 准教授：合田 典世
1回生	<p><全学共通科目> ILASセミナー E2 / 西洋史I / 西洋史学入門 <総合人間学部科目> 国際文明学入門A・B / 英米文学入門（基礎ゼミナール扱い） / 文化環境学入門</p> <p>全学共通科目では、フランス語やドイツ語のような西欧の文化を知るのに重要な語学を学習しておきましょう。ILASセミナーのE2（英語による授業）にも挑戦して語学のセンスをみがきましょう。 総合人間科目では、1、2回生において文化論の基礎を固めることを勧めます。</p>
2回生	<p><全学共通科目> 外国文献研究 E1 / E2 / 西洋近世史学 ヨーロッパ近現代史入門 <総合人間学部科目> 英米文学入門（基礎ゼミナール扱い） / 西欧近現代表象文化論 IA・IIA / 西欧近現代表象文化論III A・III B / 西欧古代・中世表象文化論 IA・IB / 西欧近現代表象文化論演習III B / 欧米歴史社会論 IA・IB 中東近現代史（副） / 東アジア文化交渉論A（副） 共生世界論演習（副）</p> <p>全学共通科目では、初修外国語は、継続して学習する工夫を各自ですることを勧めます。関心に応じてイタリア語、ラテン語、ギリシャ語などに挑戦することもよいでしょう。英語（E科目）やILASセミナーでも、興味を引く内容の授業を探索してください。総合人間科目では、人間科学系創造行為論関係や文芸表象論関係科目などの授業も積極的に受講することを勧めます。 1回生時に英米文学入門を受講していない人は2回生で受講してください（重複履修はできません。）</p>
3回生	<p><総合人間学部科目> 西欧近現代表象文化論 II A / 西欧近現代表象文化論IV A（未定） 西欧近現代表象文化論演習 II A・B 欧米歴史社会論 IA・B / 多文化社会論 IA 東アジア比較思想論AまたはB（副） / 東アジア文化交渉論A（副） / 東アジア比較思想論演習A・B（副）</p> <p>初修外国語および英語は、継続して学習する工夫を各自ですることを勧めます。卒業論文のテーマについて、指導教員と話し合いながらおおまかな道筋を考え、それに向けて文献を収集したり、予備的な調査をしておきます。</p>
4回生	<p><総合人間学部科目> 西欧近現代表象文化論 IA / 西欧近現代表象文化論IV A（未定） 西欧近現代表象文化論 II A / 西欧近現代表象文化論III B</p> <p>指導教員と頻りに面談しながら、卒業論文を作成します。夏休み明けに中間発表を行い、年内に形をつけ、一月に完成稿を仕上げます。</p>
<p>・ 西欧文化と一言でいってもその実体は多様であり、時代、地域、扱うジャンル、などによってもアプローチを変えていかなければなりません。ただし、西欧語圏のテキストを資料として扱う、という点は共通しているので、語学の力は必須です。</p> <p>・ 本関係と親和性の高い、他の学系や分野の授業も積極的に受講することを勧めます。例えば文芸表象論関係科目である英米文芸表象論（講義・演習）など。</p> <p>・ 副専攻として比較文明論を例としていますが、この部分は自由に考えてください。副専攻届の提出は3回生の10月ですが、早めから計画を立て、できれば1回生から履修してください。</p> <p>・ 3回生の後半から4回生で卒業論文執筆、大学院入試準備、就職活動などのための時間を確保できるよう、1、2回生、3回生前半でなるべく多くの単位を揃えるようにしましょう。</p> <p>・ 分属の前後に関わらず、分野の教員に遠慮なく相談してください。</p> <p>・ 表中の（副）は副専攻科目として推奨します。重複履修が可能な科目が多くありますので、学びを深めて下さい。</p>	

《履修モデル》

講座	3.芸術文化講座
学系	文化環境学系
関係・分野	比較文明論
教員	教授：勝又直也（ユダヤ学・中世ヘブライ文学）
1回生	<p><全学共通科目> 文化環境学系入門／アラビア語ⅠA・B／宗教学Ⅰ・Ⅱ／宗教人類学</p>
	<p>人文学の様々な分野を幅広く学んでください。特に、語学ではアラビア語を学ぶことをお勧めします。</p>
2回生	<p><全学共通科目> 外国文献研究「英語で読む聖書とその解釈」／アラビア語ⅡA・B／ギリシア語A・B <学部科目> ディアスポラ思想文化論A・B／欧米歴史社会論ⅠA・B</p>
	<p>人文学を幅広く学ぶとともに、ユダヤ学に関連する科目を履修することを推奨します。</p>
3回生	<p><学部科目> ディアスポラ思想文化論演習A・B／欧米歴史社会論ⅡA・B</p>
	<p>卒業研究の方向性を意識しつつ、ユダヤ学に関連するより専門的な内容を学修してください。</p>
4回生	
	<p>卒業研究に向けて、必要な知識を自主的に学修してください。</p>
<p>まずはユダヤ教やユダヤ人に少しでも関係しそうな分野を広く学んだうえで、専門的に研究したい分野を時間をかけて絞っていくことが大切です。 必要となれば、文学部などの他学部、あるいは同志社大学神学部などの他大学で開講されている、ユダヤ教やユダヤ人に関する講義や演習にも参加するといった積極性も大事です。</p>	

《履修モデル》

講座	3.芸術文化講座
学系	文化環境学系
関係・分野	比較文明論関係・文明交流論分野
教員	准教授：中筋 朋（フランス演劇・思想）
1回生	<p><全学共通科目> 芸術学／科学論／自己存在論／人間実践論／宗教学／神話論／哲学／哲学・文化史／宗教人類学／生態人類学／文化人類学など</p> <p><学部科目> 文化環境学入門／ILASセミナー（「フランス学に触れる——文学・思想・映画」） ＊年度により、総人ゼミも開講していますので、確認してみてください。</p> <p>全学共通科目はとりわけ関連深い科目を例として挙げていますが、自分の関心を第一に、広く履修してください。 また、思考力を鍛えられ、勉強の基礎体力となる語学もしっかり学習してください。専門科目ではフランス語の講読をおこないますので、可能ならフランス語を履修してください。</p>
2-3回生	<p><全学共通科目> フランス語Ⅱ（中筋）</p> <p><学部科目> 比較パラダイム文明論（講義・演習）／メディア・スタディーズ／舞台芸術論／文芸表象論／創造行為論音楽文化論／西欧近現代表象文化論／東アジア比較思想論／東アジア比較芸能論／文化実践論など</p> <p>フランス語Ⅱでは、フランスの中学生・高校生向けの文学教材を用いて、フランス語とともに文化について学びます。フランスでどのような教育がおこなわれているのかを知る機会にもなりますので、受講してみてください。 学部科目は、卒論指導を希望する学生は、比較パラダイム文明論の演習を受講してください。ほかにも、例に挙げた科目をはじめとする科目に関心に応じて履修してください。総合人間学部の科目だけでなく、興味によっては文学部のフランス語学・フランス文学特殊講義や科学哲学科学史の科目ものぞいてみてください。 また、2、3回生は卒業論文にむけて外国語で文献を読む力をつけていく時期です。学部の演習科目の講読や、文学部のフランス語学・フランス文学講読授業を通じて、じっくり読みながら考えるくせを身につけていきましょう。</p>
4回生	<p><学部科目> 比較パラダイム文明論（講義・演習）／卒業論文</p> <p>講義・演習に出席しながら、卒業論文に集中して取り組む時期です。早めに題材・方法論について相談して、じっくり執筆を楽しみましょう。</p>
<p>演劇は、人間の行動・思想・情動を、そして人間同士の関係を、人間の身体をもって示す芸術です。つまり演劇について考えるということは、人間のあらゆる営みについて考えることです。また、時代ごとにどの部分が特に強調されているかを考えることによって、時代ごとの人間の捉え方の特徴について考えることも可能です。幅広い分野の勉強をして、同時に語学や文献の講読によってじっくりと考える時間もと、その成果を卒業論文として結実していきましょう。最初は関係ないように思えた分野も、ひとつの対象について考える過程でつながっていくという体験が卒業論文でできればよいなと思います。</p>	